



風のたより

Person introduction

ほんぐ たつや

本宮 達也 | 生活支援員（生活棟2階所属）

今年の二月で入職してから三年が経ちました。前職はIT企業に勤めていましたが、転職をして今に至ります。

目黒恵風寮で働くようになったのは、前職で働いていた時に病気になることがきっかけとしてあります。自身の病を通じて「そのときの感情や考えを活かせる場所はないか」と考えた結果、障害をもつ方の役に立てるのではないかと思います。

前職とは全く異なる職種だったため、入職直後は不安や緊張が強かったことを覚えています。ですが同僚である先輩方がいてねいに教えてくださり、焦らせるのではなく、わたしのペースで仕事に取り組ましてくれました。

わからないことがあれば気軽に先輩に聞ける環境があること、職員同士の仲の良さや、職員とご利用者のみなさんの距離の近さがあることは、目黒恵風寮の良さなのではないかと思っています。だからこそ異業種だったわたしが今もこうして働くことができていのではないかと、そう感じています。

季刊 風のたより

Wind's Letter Vol.8



素心にかえる、ものづくり。

施設長就任のご挨拶

あべ あきら
阿部 亮 一 施設長



新緑のまぶしい季節となりましたが、皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

このたび、令和七年四月一日より、目黒恵風寮の施設長として着任いたしました阿部亮（あべ あきら）と申します。これからこの施設での新たなスタートを切ることができ、大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いでございます。

私はこれまで、長年にわたり目黒恵風寮に隣接する障害福祉サービスの通所施設「あゆみ園」の施設長として多くの方々と関わりながら勤め、支え合うことの大切さを学んできました。ご利用者の皆様や保護者の皆様にとって、安心して過ごせる場所であることはもちろん、心から信頼いただける施設であることが私たちの使命であると考えております。

今後、ご利用者お一人ひとりの生活がより豊かで笑顔あふれるものであるよう、スタッフ一同一丸となって努めてまいります。どんな小さなことでも、お気軽にお声かけいただければ幸いです。皆様のご意見、ご要望を大切に、常に寄り添った支援を行っていく所存です。また保護者の皆様にとっても、安心して見守りいただけるよう、しっかりとしたサポートを心がけてまいりますので、どうぞご安心ください。ご不明な点やご質問などがございましたら、いつでもご連絡ください。

最後になりましたが、皆様とともに歩んでいけることを大変嬉しく思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

季刊 風のたより

Wind's Letter Vol.8

風のたより 2025 年 6 月号

2025 年 6 月発行

発行 社会福祉法人 愛隣会

目黒恵風寮

制作 サービス管理責任者（大岩）



〒153-0044

東京都目黒区大橋 2-19-1 目黒恵風寮

電話 03-3466-0268(代表)

メール megurokeifuryou@orion.ocn.ne.jp

ウェブ <https://m-keifu.jp/>



社会福祉法人愛隣会

目黒恵風寮

つくりだす×つながりあう

LIFE THAT CREATES/CONNECTS



*「彫琢して朴に復る」
芸術や芸事などにおいて、はじめは細工をほどこしたり磨いたりするなどいろいろ手を加えるものだが、結局さいごは何も手を加えぬ飾らない姿、素朴な姿に立ち戻る（回歸する）ものであるという意。

なにげない風景の中にもいつもとはことなる横顔をみると、もしかしたらご家族すらも知らなかったかもしれない一縷の光をその人自身に感じるとき、そこから、気品や誠実さをわたしたちはふたたび発見し学びとることができるような気がしました。

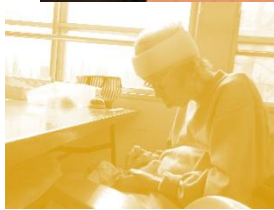
おごらず、人と比べず、ひとつのモノ・コトに眼と心を向ける態度とまなざし、ひとが一点の素心をもつてなにかに向き合う姿勢には美しさが宿ります。無心ともおもえるその姿には素朴さがあり、その素朴性はまさしく「朴に復る*」ことであり、ものづくりの職人の姿のように映ります。

「なにを描いてるの?」「これは、ぼく…ぼくなの」鉛筆を握り、そう語りながらこちらに視線を一切向けることなくカリカリと筆を動かしつつづけるご利用者Mさん。日中活動において、誰にいわれるでもなく筆をおろし帳面いっぱい「ぼく」を描き込む姿、誰かと競い合うでもなく、どんな作為も無作為もなく徹底して凝りつづける姿には、お相撲さんや好きなひとの話をきかせてくれるときのくしゃつとした笑顔や苛々されているときの少しムツとした普段の表情とはちがいが、たくましさや純粹なエネルギーが息づいているようでした。

「なにかを描いてるの?」「これは、ぼく…ぼくなの」

おおいわ たお
大岩 大緒 サービス管理責任者

「素心にかえる」



PICK UP 1 | 第46回作品展



作品展にて販売された作品の数々。

3月14日と15日の二日間にわたり開催された作品展の会場では、ご利用者のイラスト等の作品展示にはじまり、小物類やTシャツやパウンドケーキをはじめとした菓子類の販売もご好評いただきました。ご利用者の「じぶんの作品を見てもらいたい、買ってもらいたい」という思いや、行事の準備に際してスタッフからきこえてきた「訪問の機会がすくない保護者の方向けに、ご利用者の日々の暮らしのようすがわかる写真アルバムを用意したい」「〇〇さんの作品、ほんとに素敵だから見てもらいたいし買ってもらいたい」といった思いや願いが花咲き、皆さんに届けられる機会となりました。



PICK UP 2 | 日々のよろこび 2024



ご利用者の創作活動のなかで表現された線や色、形が、個性豊かに広がる「日々のよろこび」として美術館の展示のテーマに合うかたちで展示され、じっさいに自分の作品が展示されているのを目にしたご利用者のみなさんは照れくさそうに、しかしどこか誇らしげな表情にみえました。

目黒恵風寮の日中活動では、ご利用者が自分のしたいことや得意なことを活かしながら自分らしくここちよく過ごせるよう、風の向きではなく帆の向きを変えるように、ときに補い、ときに見守りながらスタッフが道具や機会や環境をととのえています。そのなかで昨年の10月、目黒区美術館で「障がいのあるアーティストによる作品展 日々のよろこび 2024」が開催され、目黒恵風寮からご利用者数名の作品が展示されました。展示会に際してはご利用者1名のイラスト作品が作品展のポスターとチラシのメインビジュアルにも抜擢され、貴重な機会をいただきました。

